

今年度の活動報告

目次

1	LINE オープンチャットを用いた新たな情報共有体制の検討	1
(1)	結論	1
(2)	検討経緯	1
ア	事務局での予備検討	1
イ	操作体験	2
2	簡易マニュアル（作成例）の作成	5
(1)	結論	5
(2)	検討経緯	7
ア	事務局での予備検討	7
イ	作業部会での検討	8
3	訓練	10
(1)	概要	10
ア	目的	10
イ	実施日時	10
ウ	実施場所	10
エ	参加者	10
オ	会場レイアウト	10
(2)	実施内容	12
ア	進行スケジュール	12
イ	実施手順	13
ウ	訓練の実施状況	14
エ	有識者からの講評	16
4	広報	17
(1)	神戸市	17
(2)	協力事業者	17
5	ハーバーランド地区における帰宅困難者対策の取組について（情報提供）	19
(1)	訓練	19
(2)	関係者間の情報共有体制の構築	19

1 LINE オープンチャットを用いた新たな情報共有体制の検討

(1) 結論

【対応方針】

今後、発災時における事業者の連絡ツールは、情報共有システムに代わり、**LINE オープンチャットを使用**する。

※ 現行の情報共有システムは、令和 5 年 3 月をもって終了する。

【調整課題】

私用スマートフォンを使用することの抵抗感や、業務上私用スマートフォンの使用ができない場合もあることから、以下のような対応を検討する。

- ・各事業者につき最低 1 名は、LINE オープンチャットを使用していただく。
- ・抵抗感がある方については、入室条件を明確にした上で、実災害時にのみ入室いただけるよう理解を求める。
- ・業務上、私用スマートフォンの使用が不可の事業者については、神戸市から依頼文を送付するなど、災害時に限り特例で使用を認めてもらえるよう事業責任者に理解を求める。

また、投稿する際のルールを今後定めていき、必要な情報が埋もれてしまわないよう対策を取る。

(2) 検討経緯

ア 事務局での予備検討

昨年度、情報共有システムの使いやすさについて協議会でアンケートを行ったところ、以下のとおり改善を求める意見を得た。

【令和 3 年度第 1 回作業部会（令和 3 年 6 月 22 日）アンケート回答（一部抜粋）】

- 普段から定期的に情報共有システムを使用する機会があれば、いざというときに使用するのがスムーズになると感じます。
- 発災時に、ログイン ID やパスワードを探して入力する時間がないと思います。
- ログイン後も、重要な情報を見落とさない為にも何らかの通知は必要かなと思います。
- スマートフォンでの閲覧がしにくい。サイトのデザインなども少しアナログ。

このような改善要望を踏まえ、普段から使用でき、通知機能があり、使いやす
い情報共有ツールとして LINE オープンチャットを取り上げ、下表のとおり
事務局で予備検討を行った。当協議会にとってのメリットを【○】、デメリット
を【△】で示す。

従前から要望が多かった「プッシュ通知」機能があり、ログインの負荷が小
さく、リアクション機能などもあることから、「LINE オープンチャット」の利
便性は高いと考えられる。

図表 1 事務局での予備検討（情報共有システムと LINE オープンチャットの機能比較）

	情報共有システム	LINE オープンチャット
事前準備	・【○】 特になし	・【△】 LINE アプリのダウンロード
ログイン	・端末のブラウザから URL を入力し、ログイン画面で ID、PW を入力 ・【△】 都度入力する必要あり	・LINE の QR コードリーダーから QR コードを読み取りニックネームを登録 ・【○】 一度ログインすればその後は入力不要
プッシュ通知	・【△】 なし	・【○】 あり
操作性	・【△】 独自の入力フォーム ・【△】 重要な連絡が埋もれてしまう可能性あり	・【○】 LINE と同様の方法で入力可 ・【○】 重要な連絡を上部に固定可能（アナウンス機能）
その他	・【○】 端末のブラウザで独自システムを利用するため、プライベートとの切り分けが可能	・【○】 投票機能 ・【○】 リアクション機能（トーク内容にワンクリックで反応ができる） ・【△】 私用で LINE アプリを利用している場合は、プライベートの LINE とトーク画面が同じ
評価	△	○

イ 操作体験

第 1 回作業部会において、参加者間で LINE オープンチャットの操作体験を行った。実施内容は、図表 2 のとおり。

1 LINE オープンチャットを用いた新たな情報共有体制の検討

(2) 検討経緯

図表 2 LINE オープンチャットの操作体験【第1回作業部会】

操作事項	操作内容
<p>① トークルーム 「神戸市帰宅困難者対策」への投稿</p>	<p>【市・協議会員・一時滞在施設事業者間での情報共有】</p> <p>①投稿による情報共有 被害状況、一斉帰宅抑制の対応状況、一時滞在施設の開設可否・受入可能人数・帰宅困難者の受入状況、神戸市からの要請（被害状況等の報告、警備会社への帰宅困難者誘導の要請など）</p> <p>②リプライ機能を使ったトークルーム内でのやり取り</p>
<p>② 投票機能の使用</p>	<p>【神戸市からの確認】 各社の周辺被害情報</p>
<p>③ ノートの使用</p>	<p>【神戸市からの情報共有】 地震情報、鉄道の運行状況、一時滞在施設の開設状況、一時滞在施設の開設可否と受入可能人数の報告要請など</p>

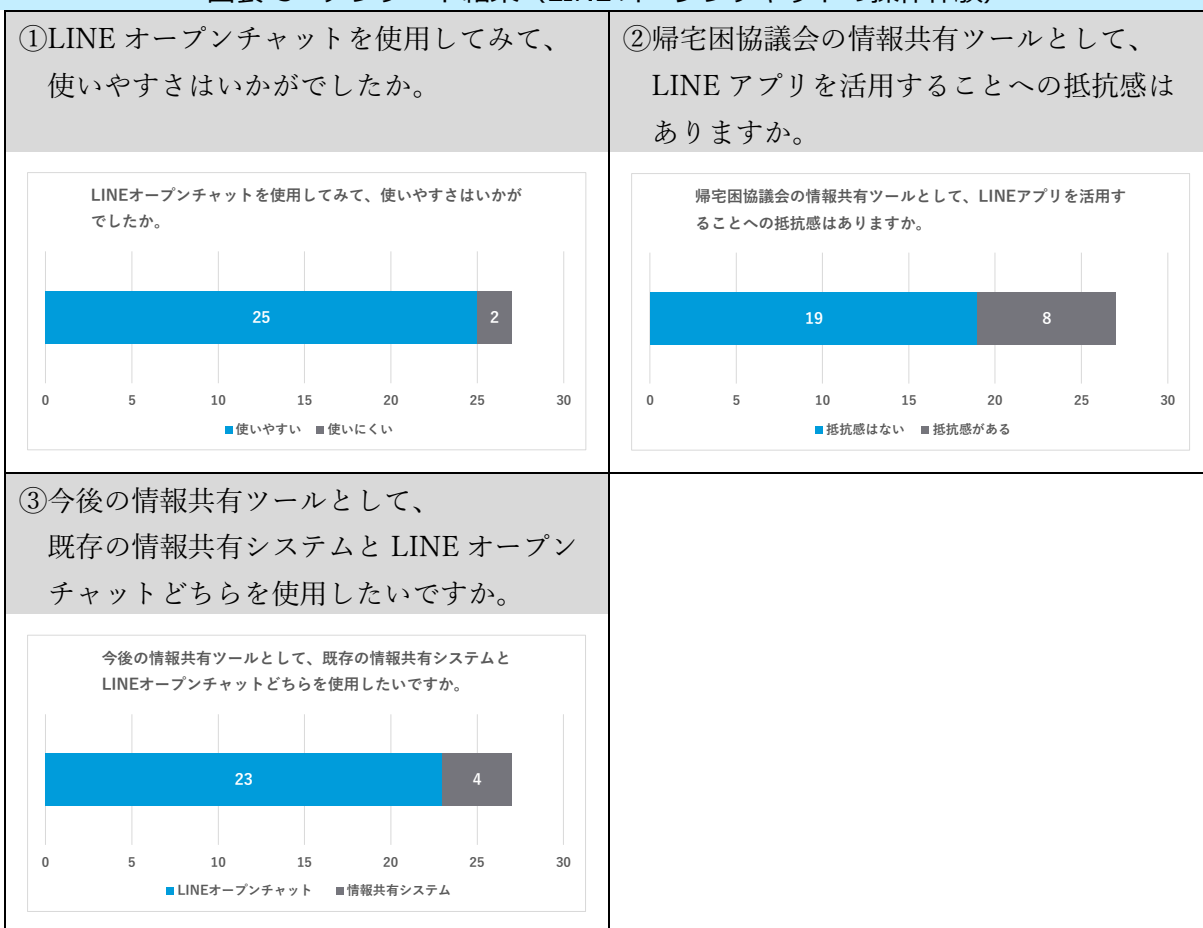
1 LINE オープンチャットを用いた新たな情報共有体制の検討

(2) 検討経緯

操作体験後のアンケート結果は、図表 3 のとおり。

- LINE オープンチャットの使いやすさについて、普段使い慣れている等の理由で「使いやすい」と回答した方が約9割であった。
- また、今後の情報共有ツールとして、「LINE オープンチャット」を使用したいと回答した方が約9割であった。
- しかし、協議会の情報共有ツールとしてLINE アプリを使用することの抵抗感については、「抵抗感がある」と回答した方が約3割おり、業務に私用のスマートフォンを用いることへの抵抗感や、そもそも業務で私用スマートフォンの使用が制限されているといった意見があった。

図表 3 アンケート結果 (LINE オープンチャットの操作体験)



2 簡易マニュアル（作成例）の作成

(1) 結論

【対応方針】

【平常時】

- 市は、全ての事業者・団体に、次のデータを提供する。
 - ① 簡易マニュアル（作成例）の編集可能なデータ（PowerPoint）
 - ② 令和4年度第2回作業部会のワークショップで用いた進行スライド及びワークシート

（※ 簡易マニュアルの編集内容の検討、自施設にあわせた簡易マニュアルを用いた研修・訓練での利用を想定。）
- 各事業者・団体は、市から提供される簡易マニュアルのデータを活用し、次の取組を行う。
 - ① 自施設にあわせて、簡易マニュアル（作成例）を編集する。
 - ② 自施設内で簡易マニュアルを共有しておく相手先を検討する。
 - ③ 自施設内で簡易マニュアルを共有するため、説明会や研修・訓練を行う。また、簡易マニュアルに記載する行動を災害時にとれるよう、資機材確保など必要な対策を行う。

【災害時】

- 各事業者・団体は、平常時に自施設内で共有しておいた簡易マニュアルを参照し、「いま何すればよいか」「この後は何をすればよいか」などを思い出しつつ行動する。

（※ 災害時の慌ただしい状況では、マニュアルを熟読して対応することは難しい。そこで、必要最低限の内容を簡潔に記載した簡易マニュアルを参照し、慌ただしい中でも必要な行動を思い出するための一助とする。）

2 簡易マニュアル（作成例）の作成

(1) 結論

図表 4 簡易マニュアル（作成例：一時滞在施設用）

一時滞在施設簡易マニュアル (作成例)

災害発生時の状況に応じて、可能な範囲で一時滞在施設を開設する。

① 安全確認、開設判断

- 人の安全確保（従業員、施設利用者）
- 施設の安全確認

神戸市から一時滞在施設の開設要請があったら…

○【判断】 開設するか？

判断材料 (例)	判断
施設の被害状況	開設する
施設の利用状況 (特に、滞在スペース)	
備蓄品の品目・量	
開設要員の確保見込み	
	開設しない

○【報告】 判断内容を神戸市へ (LINEオープンチャット)

② 要員の参集

- 開設要員を招集
- 人数が不足する場合は、以下を検討
 - ・ 地域事業者への協力の呼びかけ (LINEオープンチャット)
 - ・ 規模を縮小して縮小して開設する 等

③ 開設準備

- 開設手順の確認
- 開設準備の実施

準備事項 (例)	市への報告
受入可能人数、属性 (要配慮者に限る等) の決定	要
受入スペース準備 (滞在スペース、立入禁止箇所の明示等)	
受付の設置 (案内板の表示等)	
備蓄品準備	
受入手順・動線の確認	

○【報告】 開設予定を神戸市へ (LINEオープンチャット)

(裏面に続く)

一時滞在施設簡易マニュアル (作成例)

災害発生時の状況に応じて、可能な範囲で一時滞在施設を開設する。

④ 受入れ

- 受付で以下のいずれかを確認
 - (1) 施設案内票 & 利用同意書への署名
 - (2) マッチングシステムアプリの受付画面
- 施設利用ルールを説明の上、滞在スペースへ案内

⑤ 運営

- 施設利用者への情報提供
 - 提供情報/掲示板等の内容
 - 鉄道運行再開情報
 - 道路交通情報
 - 施設利用ルール (ごみ処理等)
- 支援物資の配布
 - ・ 取りに来てもらう
 - ・ 配って歩く 等
- 定期的な見回り
- 必要に応じ、施設利用者からボランティアを募る

⑥ 閉鎖準備

- 鉄道の運行「再開」情報の確認
- 神戸市と閉鎖について協議
- 施設利用者への案内

提供情報/掲示板等の内容
(更新情報) 鉄道運行再開情報
(更新情報) 道路交通情報
★当施設の閉鎖予定日時

⑦ 閉鎖

- 施設利用者へ退出を要請 (～最終退出者の確認)
- 【報告】 閉鎖完了を神戸市へ (LINEオープンチャット)

図表 5 簡易マニュアル（作成例：協議会員用）

発災時簡易マニュアル (協議会員用)

協議会員は災害発生後、下記の対応を行う。

① 安全確認

- 人の安全確保（従業員、施設利用者）
- 施設の安全確認

② 一斉帰宅抑制の呼びかけ

- 待機の呼びかけ (館内放送・サイネージ等)
- 情報収集 → 情報提供 (例：鉄道の運行状況、道路の状況、駅周辺の混雑状況 等)

③ 施設利用者保護の判断

- 【判断】 利用者を施設内で保護するか？

判断材料 (例)	判断
施設の被害状況	保護する → 待機スペース設置・誘導
待機スペースの有無	
備蓄品の品目・量	
	保護しない → 一時退避場所を案内

○【報告】 判断内容を神戸市へ (LINEオープンチャット)

④ 施設利用者の保護

- 支援事項の実施 (できる範囲)

支援事項 (例)	備考
情報提供	鉄道・道路の状況、地域の状況、館内の利用可能な設備
備蓄品の提供	地域が混乱中は待機を推奨
帰宅希望者への対応	道路交通情報、支援ステーション等の情報提供

(裏面に続く)

発災時簡易マニュアル (協議会員用)

協議会員は災害発生時に、可能な範囲で下記の対応を行う。

① 一時滞在施設へのサポート

- 【確認】 一時滞在施設への応援可否

応援対応の例	備考
人の派遣	人数、派遣可能な時間帯等
物品の提供	自施設で余分に保有している物品等
その他、一時滞在施設から応援要請があった場合の対応可否	

○【報告】 応援可否を一時滞在施設へ (LINEオープンチャット)

○ 応援の実施

② 帰宅困難者の誘導

- 帰宅困難者の一時退避場所への誘導協力 (例：呼びかけ、場所の案内 等)

③ 一時退避場所でのサポート

- 【確認】 一時退避場所での応援可否
- 応援内容：帰宅困難者の振り分け

確認事項
派遣可能な人数
派遣可能な時間帯
その他、神戸市から応援要請への対応可否

○【報告】 応援可否を神戸市へ (LINEオープンチャット)

○ 応援の実施

(2) 検討経緯

ア 事務局での予備検討

(ア) 目的

市及び協議会では、これまでに帰宅困難者対策に関する計画等を下記のとおり整備済みであり、「一斉帰宅抑制」に関する普及啓発も市で積極的に継続している。

【整備済みの計画等（令和3年度時点）】

- ① 神戸市帰宅困難者対策基本指針 第二版（令和3年3月）
- ② 神戸市帰宅困難者支援に係る協力事業者登録要綱（令和2年7月）
- ③ 三宮駅周辺地域都市再生安全確保計画 第五版（令和4年3月）
- ④ 三宮駅周辺地域帰宅困難者対策計画 第六版（令和4年3月）
- ⑤ 三宮駅周辺地域帰宅困難者対策計画 一時滞在施設運営ガイドライン（平成29年3月）
- ⑥ 三宮駅周辺地域帰宅困難者対策計画 一斉帰宅抑制ガイドライン（平成30年3月）

協議会での次の取組としては、一時滞在施設の運営をはじめとする災害時の帰宅困難者対応について、基本的な手順等を整理し、各事業者・団体における取組の一助とすることが必要である。

そこで、各事業者・団体における「災害時の対応手順」を簡潔かつ明確に整理し、災害時に活用いただける「簡易マニュアル（作成例）」を作成する。

(イ) 対象

次の2区分で簡易マニュアルを作成した。

- ① 一時滞在施設協力事業者
- ② 協議会員（ただし、一時滞在施設協力事業者、交通事業者を除く。）

なお、交通事業者は、次の点を踏まえ、簡易マニュアルの対象外とした。

- ・ 各駅では、鉄道の運行再開に向けた対応を最優先。
- ・ 鉄道の運行情報は、各社ホームページや運行情報アプリで収集。
- ・ 帰宅困難者対策としては、可能な範囲で、駅とその近辺の混雑状況等を、市・一時滞在施設・協議会員に情報共有。

(ウ) 簡易マニュアル（作成例：一時滞在施設用）の構成

一時滞在施設協力事業者向けに、一時滞在施設の開設から閉鎖に至る主な対応として次の7項目を挙げ、チェックリスト形式でとりまとめた。

- ① 安全確認、開設判断
- ② 要員の参集
- ③ 開設準備
- ④ 受入れ
- ⑤ 運営

⑥ 閉鎖準備

⑦ 閉鎖

(エ) 簡易マニュアル（作成例：協議会員用）の構成

協議会員（ただし、一時滞在施設協力事業者、交通事業者を除く。）向けに、必ず実施する4項目、可能な範囲で実施する3項目を挙げ、チェックリスト形式でとりまとめた。

必ず実施する4項目では、全ての事業者・団体に共通して必要な災害時対応として、従業員等の安全確保や施設利用者の保護や一斉帰宅の抑制を挙げた。

可能な範囲で実施する3項目では、神戸市帰宅困難者対策基本指針の4本柱の1つ「混乱防止、一時退避・滞在」に対する協力を挙げた。

【表面】必ず実施

- ① 安全確認
- ② 一斉帰宅抑制の呼びかけ
- ③ 施設利用者保護の判断
- ④ 施設利用者の保護

【裏面】可能な範囲で実施

- ① 一時滞在施設へのサポート
- ② 帰宅困難者の誘導
- ③ 一時退避場所でのサポート

【資料名の末尾の「(作成例)」について】

一時滞在施設を設置する施設は、施設の種別（例：商業施設、テナントビル、集客施設、地下道など）、利用形態、管理・運営体制等が異なる。

そこで、簡易マニュアル（作成例）として提示する災害時対応は、各施設に共通すると協議会事務局で想定した基本的な内容とし、各事業者・団体が自施設の特性を踏まえて簡易マニュアル（作成例）を編集し、自施設のマニュアルとしてご活用いただくものとした。

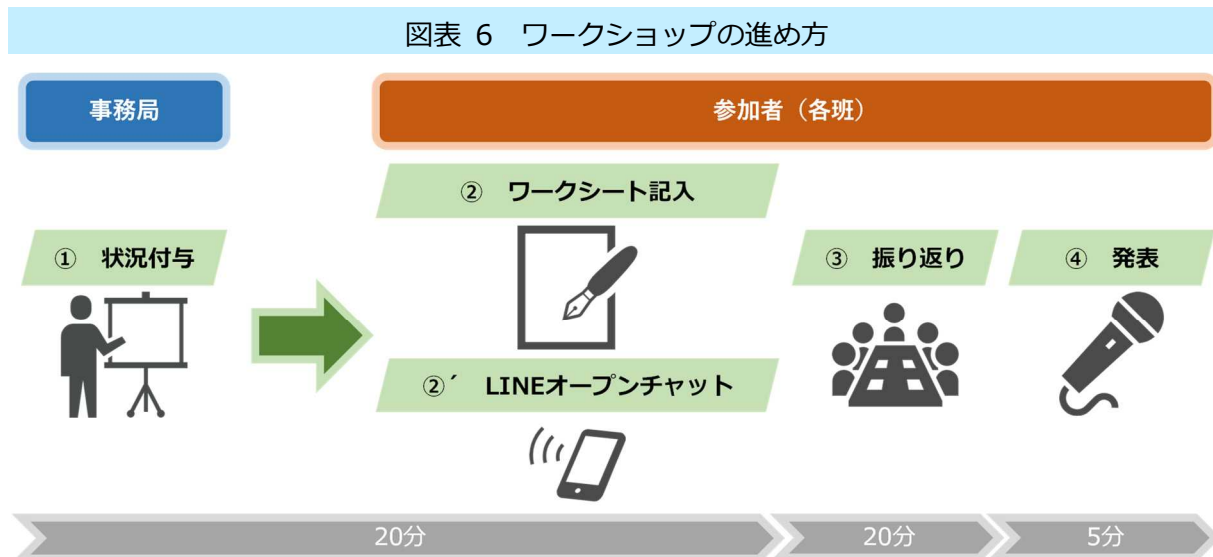
資料名の末尾には、今回作成し、全ての事業者・団体に配付するものが協議会としてルール化されたものではない旨を共有するため、「(作成例)」と補記した。

イ 作業部会での検討

第2回作業部会において、簡易マニュアル（作成例）（案）を基に発災時に取るべき具体的な行動のイメージを共有するとともに、簡易マニュアル（作成例）

の実効性を確認するため、ワークショップを実施した。

事務局が付与する状況に応じ、参加者が簡易マニュアル（作成例）（案）の該当箇所を参考として対応を検討してワークシートに記入した（図表 6）。



参加者からは、簡易マニュアル（作成例）（案）に対し、次のようなご意見を
得た。

- 簡易マニュアル（作成例）の構成や内容、使い勝手については、概ね良
好な評価を得た。
- 簡易マニュアル（作成例）を活用した取組として、次のご意見があった。
 - ・ 一時滞在施設のスタッフ間での意見交換を通じた準備、さらに詳細
なマニュアルの整備
 - ・ 簡易マニュアル（作成例）と今回のワークシートを用いた施設別の
検討
- 簡易マニュアル（作成例）に関連し、次のご意見があった
 - ・ 一時滞在施設の開設準備に必要な資機材等を備蓄品とセットで用意
しておく。
 - ・ 一時滞在施設の建物の安全確認について、早めの診断を受けられる
とよい。なお、設備関係は管理会社で行える。

3 訓練（詳細は参考資料 6）

（1）概要

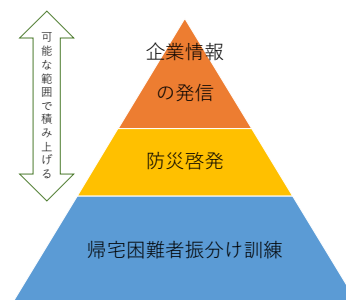
3 訓練（詳細は参考資料 6）

（1）概要

ア 目的

一時滞在施設に帰宅困難者を受け入れる流れを**市民参加型の実動訓練**で検証を行い、帰宅困難者の受け入れ時の対応手順確認や、一時滞在施設の運営方法を確認する。

また、帰宅困難者対策協力企業による防災展示や事業広報などを行うことで、参加者へ広く神戸市の帰宅困難者への取り組みを周知する。



イ 実施日時

令和4年11月9日（水）11:30～15:00

ウ 実施場所

デザイン・クリエイティブセンター神戸 KIITO ホール及びギャラリーA

エ 参加者

（ア）帰宅困難者対策協力事業者

26 企業・団体・機関が、一時滞在施設ブース、企業広報ブース、ステージ上のイベント、訓練会場、帰宅困難者の誘導、帰宅困難者対策オペレーションシステム（仮称）、廣井教授インタビュー、司会にて参加。

（イ）三宮周辺の会社員及び買い物客を中心とした帰宅困難者になりうる市民

神戸市による事前広報で周知。

約 350 人の市民及び協議会員等が帰宅困難者役として参加。

オ 会場レイアウト

会場レイアウトは図表 7 のとおり。

次の4つのゾーンを設定した。

- ① 事務局（振分け場所）
- ② 一時滞在施設ブース
- ③ ステージ
- ④ 企業広報ブース

3 訓練（詳細は参考資料 6）

(1) 概要

図表 7 会場レイアウト

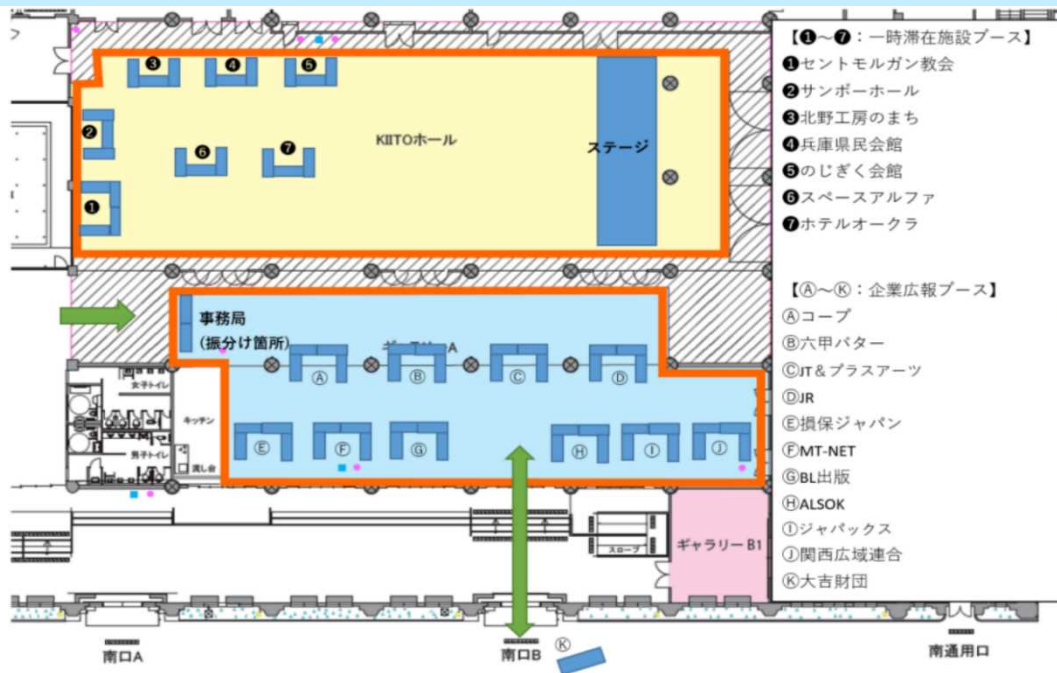


写真 1 会場設営の状況

事務局（振分け場所）



一時滞在施設ブース



ステージ、観客席



企業広報ブース



(2) 実施内容

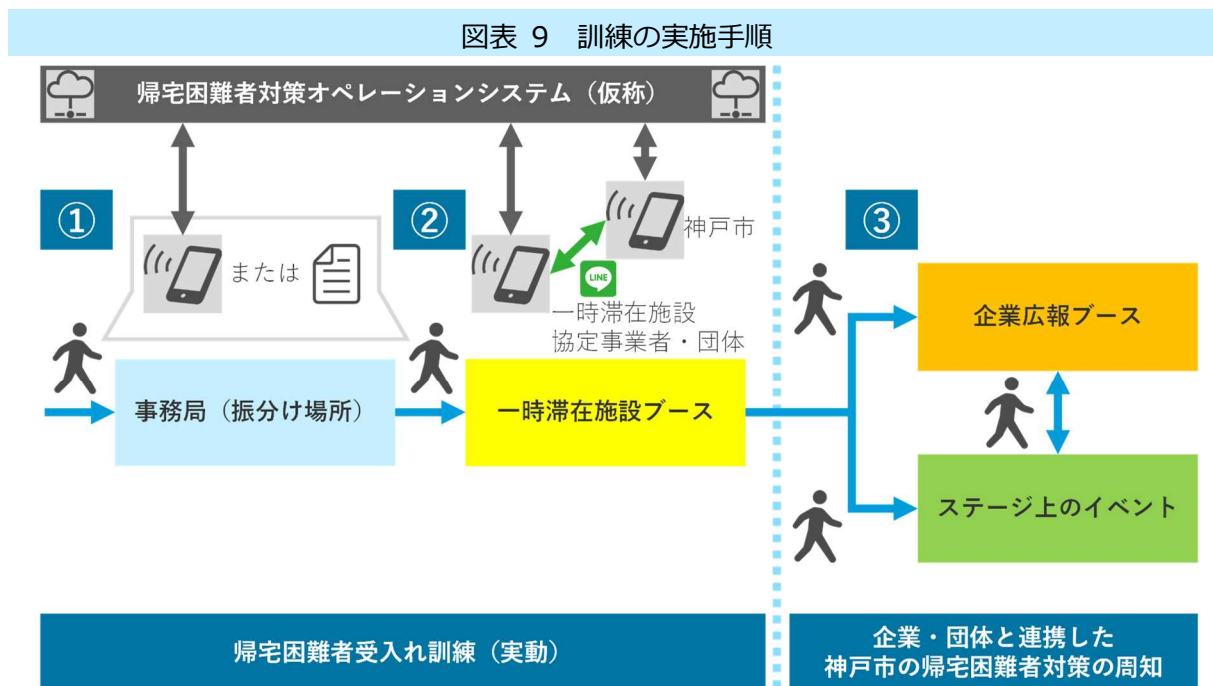
ア 進行スケジュール

当日の進行スケジュールは図表 8 のとおり。

図表 8 当日の進行スケジュール			
時間	企業広報ブース	一時滞在施設ブース	ステージ上のイベント
9:00～11:30	会場設営 ブース出展準備 ※展示物の搬入及びブ ースへの展示		
11:30～11:40	開会 ①神戸市からの挨拶（危機管理監） ②訓練説明		
11:40～11:50		情報共有訓練 ※LINE オープンチャッ トにより一時滞在施 設の開設実施要請	
12:00～12:15	参加者への対応 ※一時滞在施設ブース で帰宅困難者受入れ 訓練に対応した参加 者が企業広報ブース を回覧	帰宅困難者受入れ訓練 ※事務局（振分け場 所）で受付を済ませ た参加者（帰宅困難 者役）の受入れを帰 宅困難者対策オペレ ーションシステム （仮称）または紙の 帳票で実施	大滝秀子氏による歌唱 「STOP 一斉帰宅音 頭」 ----- 協賛企業の紹介
12:15～12:50			「帰宅困難者」大喜利 協賛企業の紹介
12:50～13:15	※14:00 をもって参加者 の受入れを終了		東京大学 廣井教授の おはなし ----- 協賛企業の紹介
13:15～13:45		※14:00 をもって参加者 の受入れを終了	神戸市消防音楽隊によ る演奏
13:45～14:00			大滝秀子氏による歌唱 「STOP 一斉帰宅音 頭」
14:00～14:15		情報共有訓練 ※来場者数、一時滞在 施設ブース受け入れ 人数報告	
14:15～14:40		訓練の振り返り ※参加者からの訓練を 通した意見・感想聴 取 廣井教授による講評	
14:40～14:50	閉会 ①神戸市からの挨拶（危機管理室長）		
14:50～	会場撤去		

イ 実施手順

帰宅困難者役の動き（図表 9）を中心に、訓練の実施手順を整理する。



① 一時滞在施設への振り分け

帰宅困難者受入れ訓練（実動）として実施。

事務局（振分け場所）において、市職員が、「一時退避場所（例：東遊園地、みなとのもり公園）での市職員による一時滞在施設への振り分け場所」における対応として、帰宅困難者役の受付及び一時滞在施設の案内（※）を行う。

（※）帰宅困難者役が自ら帰宅困難者対策オペレーションシステム（仮称）を使用、または、市職員が帰宅困難者役に紙の案内票を交付することで、一時滞在施設への案内とする。

市職員から案内を受けた帰宅困難者役は、帰宅困難者対策オペレーションシステム（仮称）または紙の案内票で示された一時滞在施設ブースに移動する。

② 一時滞在施設での帰宅困難者の受付、市・一時滞在施設間での情報共有

帰宅困難者受入れ訓練（実動）として実施。

一時滞在施設ブースにおいて、一時滞在施設協定事業者・団体の職員が、事務局（振分け場所）から移動してきた帰宅困難者役の受付（※）を行う。

（※）一時滞在施設協定事業者・団体の職員が、帰宅困難者役のスマートフォンの帰宅困難者対策オペレーションシステム（仮称）受付画面または紙の受付票を確認することで、一時滞在施設での受付とする。

③ 企業・団体と連携した神戸市の帰宅困難者対策の周知

上記①・②を済ませた帰宅困難者役が、会場内を自由に移動し、企業広報ブースを回覧するとともに、ステージ上のイベントに参加する。

3 訓練（詳細は参考資料 6）

(2) 実施内容

ウ 訓練の実施状況

事務局（振分け場所）での対応状況	
	
誘導員による帰宅困難者役の誘導	一時滞在施設での帰宅困難者の受付
	
市・一時滞在施設間での情報共有 (LINE オープンチャット、帰宅困難者対策オペレーションシステム (仮称))	
	
企業広報ブース	
	

3 訓練（詳細は参考資料 6）

(2) 実施内容

<p>大滝秀子氏による歌唱「STOP 一斉帰宅音頭」</p> 	<p>神戸市消防音楽隊による演奏</p> 	
<p>【「帰宅困難者」大喜利】桂あおば氏、桂咲之輔氏、桂三実氏</p>		
		
<p>東京大学 廣井教授のおはなし</p>		
		
<p>スタンプラリー（一時滞在施設ブース）</p>	<p>プレゼント配布（事務局）</p>	
		

エ 有識者からの講評

東京大学大学院工学系研究科 都市工学専攻 廣井 悠 教授から、次のとおり講評をいただいた。

○所感

- ・帰宅困難者対策オペレーションシステム（仮称）について、皆様のご感想から多少の注文はあるものの、概ねうまく機能していたと思われる。このシステムを活用し、群集の混乱防止にご尽力いただきたい。

○注文

- ・今回の訓練を通じて、神戸の事業者の方の絆の強さに非常に感銘を受けた。このような活気のある訓練は、東京でも難しいのではないかと思う。だからこそその注文として、来年度以降の帰宅困難者対策訓練では、多様なパターンを想像した訓練に取り組んでいただきたい。
- ・内閣府の「首都直下地震帰宅困難者等対策検討委員会」で議論しているが、帰宅困難者問題が非常に厄介な原因は、発災時の状況によって全く異なることとの指摘がある。
例えば、朝に発災した場合は、2018 年の大阪府北部を震源とする地震のように、帰宅困難者というよりも出勤困難者となった人たちが、車で都心部に向かって大渋滞となり、救急車が通行できない問題となってしまう。
また、災害の規模についても、今回の訓練では神戸市内で震度 4 を想定したが、もう少し大きな地震が発生した場合など、様々なパターンがある。
- ・つまり、様々なパターンを想定し、それに対してどのように対応したらよいかを考えておく必要があるということ。したがって、多様なパターンを想像した訓練がとても重要。
- ・東日本大震災の被災地の方にお話を伺う中で、多くの方から「イメージ力が欠如していた」というお話を聞く。1つの想定だけを信じすぎて、その想定ばかりで訓練を行っている、少し大きい地震にも対応できなくなると多くの方から聞く。
- ・様々な災害現象をイメージしておいて、例えば「こういうパターンのときは、こういう対応をする。」というような模範解答を、自分の中あるいは会社の中で作っておくことが、防災減災において重要。
- ・帰宅困難者対策は、発災の場所・大きさ・時期・時間帯や、休日・平日によっても必要な対応が全く異なる上、発生する帰宅困難者の量も質も異なる。また、対応によって必要となる一時滞在施設の数も異なる。
- ・是非とも、来年度以降は今回とは想定を変えて訓練を積み重ねていき、「こういう想定のはきは、こういう対応をしよう。」といった選択肢を頭の中でたくさん用意していただければと思う。

- 4 広報
 (1) 神戸市

4 広報

(1) 神戸市

媒体	方法
神戸市広報	Twitter 配信 (41,988 フォロワー) Facebook 配信
広報紙 KOBE	配布冊子において事業 PR (全世帯) 2022 年 11 月号に掲載
KOBE 防災ポータル 「SONAE TO U」	お知らせ欄掲載 (閲覧者)
ポスター・チラシ	各事業者協力による掲示 10 月初旬から各企業による告知
マスコミ	Kiss FM KOBE : 10 月 11 日～11 月 7 日にスポット告知
サイネージ	クモイビジョン……………神戸新聞会館との連携 神戸国際会館サイネージ……………神戸国際会館との連携 JR 元町駅・神戸駅……………JR 西日本神戸支社との連携 ミントビジョン、センター街ビジョン……………神戸市広報課の枠



(2) 協力事業者

事業者名	広報内容
Kiss FM KOBE	①訓練前 (WEB サイト) 「Kiss FM KOBE 協力 帰宅困難者対策訓練」 https://www.kiss-fm.co.jp/information/6918/
	②訓練当日 (Twitter) Kiss FM KOBE (2022 年 11 月 9 日) 「三宮駅周辺地域帰宅困難者対策訓練 #KissFMKOBE #藤原岬 訓練中🔊 今日午前 11 時に直下型地震が発生した想定の下、一時滞在施設のひとつである KIIT O に徒歩で集まり、帰宅困難者の発生を自分事としてイメージしてもらう訓練です。ぜひご参加ください！」 https://twitter.com/KissFMKOBE/status/1590169481376337922?s=20
	③訓練当日 (Twitter) 上記②のリツイート Kiss Music Presenter (2022 年 11 月 9 日) https://twitter.com/KissFMKOBE/status/1590169481376337922?s=20

4 広報
 (2) 協力事業者

事業者名	広報内容
Kiss FM KOBE	④訓練後 (Twitter) Kiss Music Presenter (2022年11月15日)「#KissFMKOBE Kiss MusicPresenter #kmp 16時台は11/9(水)に #KIITO で行われた三宮駅周辺地域 #帰宅困難者対策訓練 から東京大学大学院 #廣井悠 @uuhiroi 教授のインタビューをお送りしました」 https://twitter.com/kmpdayo/status/1592413157381001216?s=20
一般財団法人 大吉財団	「神戸市の帰宅困難者対策訓練に出展しました！」 https://www.daiki-chi-f.or.jp/topics/1949.html
防災 ThePress	「帰宅困難者対策訓練に参加して感じたこと Part.3」 https://www.disaster-prevention.jp/2022/12/21/%E5%B8%B0%E5%AE%85%E5%9B%B0%E9%9B%A3%E8%80%85%E5%AF%BE%E7%AD%96%E8%A8%93%E7%B7%B4%E3%81%AB%E5%8F%82%E5%8A%A0%E3%81%97%E3%81%A6%E6%84%9F%E3%81%98%E3%81%9F%E3%81%93%E3%81%A8-part-3/
J:COM	11月19日～25日放送
神戸新聞	11月10日

5 ハーパーランド地区における帰宅困難者対策の取組について（情報提供）

(1) 訓練

5 ハーパーランド地区における帰宅困難者対策の取組について（情報提供）

神戸駅周辺地域津波避難等対策協議会において、下記の取組を行った。

(1) 訓練

2022 年度神戸駅周辺地域避難誘導合同訓練

ア 目的

南海トラフ大地震が発生し、大津波警報が発令された場合を想定し、津波の到達まで 90 分のうち発生後 60 分間に特化し、事業所間で連携し、より迅速な初動対応をするため、避難誘導および LINE オープンチャットによる情報伝達訓練を行う。

イ 実施日時

2023 年 1 月 17 日（火）9:00～（所要時間 約 1 時間）

ウ 参加者

神戸駅周辺地域津波避難等対策協議会構成員

エ 実施内容

第 1 部【40 分】：一時退避所への退避

※LINE オープンチャットによる情報伝達訓練

第 2 部【20 分】：LINE オープンチャットによる帰宅困難者の情報伝達訓練

(2) 関係者間の情報共有体制の構築

本部・各企業間での避難者数や帰宅支援等に係る情報共有

A 社

ハーバーランド災害対策本部宛			
発信者			
避難先 (避難先、電話番号)			
日付		時刻	
避難者数		内、男性	名
		名	内、女性
		名	名
備考	(被害情報など)		
物資要望			
帰宅支援	西方面		東方面
		名	名
	北方面		関西空港方面
		名	名

本部

本部 避難情報集約表			
施設名 場所名	避難者数		備考
	男	女	
施設 1	計	名	
		名	
施設 2	計	名	
		名	
施設 3	計	名	
		名	
施設 4	計	名	
		名	
施設 5	計	名	
		名	
施設 6	計	名	
		名	
施設 7	計	名	
		名	
施設 8	計	名	
		名	
施設 9	計	名	
		名	
施設 10	計	名	
		名	
合計	避難者数	名	特記すべき備考
	男性	女性	
		名	

B 社

...